

川崎医科大学附属病院にて多発肋骨骨折で治療を受けられた

65 歳以上の患者様及びそのご家族の方へ

研究課題「高齢者の多発肋骨骨折に対する high flow nasal cannula oxygen therapy の有効性を検証する多施設共同前向き観察研究」

へのご参加のお願い

この度、川崎医科大学附属病院では、ご高齢の患者様の多発肋骨骨折に対する high flow nasal cannula oxygen therapy の有効性に関する研究を実施いたします。本研究は、研究責任者 岡根 堯弘のもと、東京科学大学倫理審査委員会の承認を得て行われるものです。

1. 情報の利用目的及び利用方法

肋骨骨折はご高齢の患者様に対して、約 10%の肺炎発症率と死亡率があると言われており、重篤な病気です。近年では、多発肋骨骨折に対して手術治療が有効であるという報告も増えてきていますが、治療の主流は今でも保存治療です。保存治療は十分な鎮痛、リハビリ、機械による呼吸サポートなどがあります。high flow nasal cannula (HFNC) oxygen therapy は、高流量の加温加湿酸素を供給することで、患者さんの快適性を保ちながら呼吸努力を減らし呼吸状態の改善を図ることができる、患者さんにとって負担の少ない治療です。これまでの研究では、HFNC がご高齢の患者さんの呼吸サポートとして有効であることが示されていますが、外傷患者、特に肋骨骨折の患者さんに対する研究はありません。本研究により、肋骨骨折を受傷されたご高齢の患者様の治療として HFNC が有効かどうかを検証することが目的です。

本研究で得られた情報は、研究開始時点では特定されない将来のご高齢の患者様の多発肋骨に関する研究のために用いる可能性があります。その場合には改めて研究計画書を作成又は変更し、しかるべき審査委員会の承認及び研究機関の長の許可を得た後、再度患者様へ周知します。また、他の研究機関に情報を提供する場合には、研究機関の長に報告し個人が特定されないよう匿名化した上で提供致します。

2. 利用される情報の内容

本研究で使用される情報は以下の項目です。

- ・年齢、性別、BMI、既往歴、常用薬、喫煙歴、飲酒歴などの情報
- ・受傷日時、受傷機転などの情報
- ・来院時の意識レベル、脈拍数、血圧、呼吸数など
- ・採血結果、画像検査所見
- ・既往歴：心肺疾患、糖尿病、慢性腎疾患、癌など
- ・施行した手術
- ・鎮痛のための処置
- ・その他の治療(去痰薬、吸入、抗菌薬など)
- ・輸血の有無
- ・上記を実施した日時
- ・肺炎の発症率
- ・退院時転帰
- ・入院期間
- ・人工呼吸器装着率
- ・呼吸困難の程度
- ・ICU滞在日数
- ・治療関連の有害事象

3. 利用開始予定日

この研究は2025年4月1日から2028年3月31日までの間に多発肋骨骨折（3本以上の肋骨骨折と定義されます）で入院された65歳以上の患者様が対象となります。

4. 情報提供を行う機関とその長

川崎医科大学附属病院 院長 永井 敦

5. 提供する情報の取得方法

カルテに記載された情報を個人が特定できないよう、匿名化した状態で取得します。本研究のために新たに患者様から取得する試料はありません。

6. 提供する情報を用いる研究に係る研究責任者

研究責任者：川崎医科大学附属病院 救急科 兼務チーフレジデント 岡根 堯弘

研究代表者：東京科学大学 救急災害医学分野 教授 森下 幸治

7. 情報を利用する者の範囲

この情報は本研究へ参加する医療機関の研究者に限り利用され、目的外利用は一切行いません。

8. 情報管理の責任者

情報の管理責任者は研究責任者である川崎医科大学附属病院 救急科 岡根 堯弘が担当いたします。

9. 情報提供の停止について

研究対象者の方がご希望される場合、いつでもご自身の情報の利用および他の機関への提供を停止することが可能です。

10. 情報提供の停止・及び本研究に関するお問い合わせ方法

研究責任者：岡根 堯弘

所属機関：川崎医科大学附属病院

職位：兼務チーフレジデント

所在地：岡山県倉敷市松島 577

電話番号：086-462-1111 平日 8:30～17:00

e-mail：Takahiro_okane@med.kawasaki-m.ac.jp

研究代表者：森下 幸治

所属機関名：東京科学大学

診療科：救急災害医学分野

職位：教授

所在地：東京都文京区湯島 1-5-45

電話番号：029-830-3711

e-mail: adg3855@gmail.com